

佐世保史談会 令和5年6月度

定例研究発表会のご案内

佐世保史談会会長 中島 眞澄

初夏の候、皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
6月の歴史講話・定例研究発表会を下記の日程で開催いたします。
会員の皆様はじめ、市民の皆様のご来場をお待ちしております。

日 時 令和5年6月24日(土) 13:00~15:45
会 場 佐世保市立図書館 3階視聴覚室
(公共交通機関でお越しください)
主 催 佐世保史談会
参加費用 200円(資料代)
問い合わせ先 廣田 昌一呂 電. 32-4464

(1) 歴史講話 13:05~13:45

話 題 東海道 岡崎~宮宿を歩く

講 師 廣田 昌一呂 (ひろた しょういちろ) 会員

(2) 研究発表 14:00~15:45 (質疑等含む)

主 題 6.29 佐世保空襲とその後

発表者 宮崎 勝秀 (みやざき かつひで) 会員

昭和20年6月、佐世保に爆弾が落とされた状況を検証してみると、意外な事実も浮かんでくる。空襲の時、焼夷弾で家が燃えている中、逃げないでたくさんの方が亡くなった。その訳。アメリカ軍 B29 爆撃機が狙った町と空襲を免れた町。その意図は・・・。

軍が「敗け戦」を続ける中、8.15 終戦を迎える。廃墟の街で市民の生きるための苦労は平和宣言に込めた思いへとつながる。基地の町から商業・貿易の町を目指した。しかし、朝鮮戦争勃発。戦後佐世保は軍港都市としての性格が再び決定づけられる。



「空襲で焼けた佐世保の本通り・島瀬町付近」
『占領軍が写した占領直後の佐世保』芸文堂